

グリーン久万郷 グリーン仁淀川

久万高原産廃処分場を止める会

代表 川本博文 0892-21-0706

事務局 鷲野 宏 080-6376-8076

編集長 古田 隆 090-4794-1041

会計 守屋律郎 0892-50-9501

HP <http://stop-kumakogensanpai.info>

Mail info@stop-kumakogensanpai.info

利益優先の業者でなく環境への配慮優先の行政で

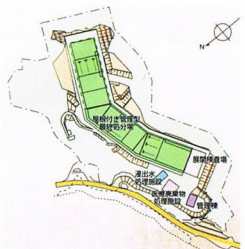
高知日高村の施設づくりに学ぶ一本会12人が視察研修

久万高原産廃処分場を止める会は、理事会の決定の基づき、去る1月27日、高知県日高村にある公益法人「エコサイクル高知」のエコサイクルセンターを視察研修しました。

県内で発生した産廃は県内で処理するといふ当たり前の考え方が



らスタートし、公共開与の第三セクター方式により十八年以上の歳月をかけ開業に至った日高村の「エコサイクルセンター」は、間口四十m、奥行約三百m、深さ十mの大地や地下水、騒音などの環境に配慮した屋根付の管理型最終処分場である。同じ管理型である日



高村の処分場と久万高原町に計画されているT O社の処分場を比較してみる。

埋立容量は、日高村十一万m³、久万高原町百万m³、建設工費は、日高村三十五億円、久万高原町は計画では概算十四億五千万円。単純に比較はできないが、建設工費を埋立容量で割ってみると一m³当たり日高村は約三万一千八百円、久万高原町は千四百五十円である。埋立面積による一m³当たり工費単価の比較では、日高村二



十九万一千六百円、久万高原町四万八千三百円となる。日高村は屋根工費に約四億五千万円、久万高原町は雨水集排水設備工費として七千五百万円を予定している。視察対応していただいたエコサイクル高知の宮地専務理事によれば「公共開与の管理型最終処分場は、今や屋根付が主流になっていくが、民間事業者では建設費が嵩むことから、そこまでする事業者はいないのではないか」とのことである。産廃物の処理及び清掃に関する法律により、一般廃棄物は市町村に処理責任があり、産業廃棄物は事業者責任となっている。私見であるが、産業廃棄物の処理は、国・県が主体性を持って取り組むべきで、産廃最終

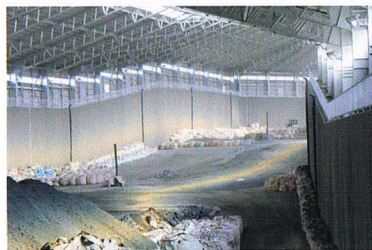
「エコサイクル高知」の視察を

久万高原町と町議会はT O社の処分場設置に反対表明をした6か月後、町内の一般廃棄物処理を松山市に委託することを決めました。その直後視察した東温市の最終処分場業者の社員は、「久万高原町は自分たちのゴミを松山市に処分させようとしている、T O社さんがやってくれようとしているのだから」と発言しています。このことは一般廃棄物と産業廃棄物をなんとか混同させて、「どこかには必要」と感じさせる推進業者の常套手段の見本です。

1月27日、止める会理事は、高知の管理型最終処分場の視察に行きました。利益追求が目的の民間企業のものとは比較にならない汚染物質の管理体制と誠実な情報公開に、本当に行っていたと感じました。

2月5日には久万高原町議会が視察に行かれるようです。2040年には4300人になるといわれる久万高原町には、「どのような一般廃棄物最終処分場が現実的なのか」を町議会が議論し始めるきっかけになることは、本当に有意義で勇気ある一歩だと思えます。もちろんその結果、愛媛県の目指している循環型社会の雛形として、「ゴミの街づくり」が町民と議論の上、輿論として合意形成されていくことを確信しています。

止める会の目的は「先人から受け継いだ自然環境・生活環境・文化環境を、現在及び将来の町民に継承し、まっとうな生業を持続し、健康で文化的な生活が維持できるように、産業廃棄物処分場等の設置を止めるための諸活動を行う」です。活動の目的が自己保身ではなく、汚染物質を出さない社会づくりを同時に提案できるように、久万高原町・町議会で働きかけたいと考えています。(事務局長 鷲野宏)



講演会・総会

日時 3月9日18:00

場所 産業文化会館

循環のまちづくりを実践している福岡県大木町の方に来ていただいてお話を聞き総会を持ちます。

(代表 川本博文)

知事宛反対署名と会員獲得を重点に活動と組織強化

1/22 止める会第5回理事会 日高村施設見学も



廃棄物法制穴だらけ 県政にも大きな問題ーゴミ意見交換会

昨年8月に続いている第2回、松山市レッグ、西予市三瓶、今治市、久万高原町から報告がありました。今治と松山は作られて汚染、被害が出ています。三瓶は建設中。久万高原だけまだ認可されていない。豊島の石井さん、東温の環境保護活動家の参加もあり、多面的な報告や論議が起こりました。

最後に司会者から、日本の廃棄物法制の特徴は①ゴミの後始末法である②排出業者・製造業者の責任軽減法である③廃棄物処理費用を消費者に転嫁する法であるとの紹介、愛媛県の産廃行政の大きな問題指摘。

去る1月22日、産文会場に第5回理事会を開催しました。

まず川本代表の開会挨拶の後、報告事項に入り、議会への陳情書の提出について、豊島事件から愛媛のゴミ問題を考える会での石井亨さんの講演の要旨、本会のホームページの充実に向けた取り組み、高知県の情勢等の報告がありました。

続いて

議事に入り

①愛媛県知事宛の反対署名の取り組み

②第2回愛媛のゴミ問題を考える意見交換会への参加について

③高知県日高村「エコサイクルセンター」の視察について



④総会の開催について

⑤会員募集とカンパの取り組みについて

等の協議をしました。

①と⑤は特に力を入れて、必要性や可能性があれば地域でチームを組んで取り組み、最初の反対署名を上回る署名・入会を獲得する。

②③④については本紙掲載の通りです。

処理場は作らせたなら終わりだから今こそ。

ホームページにアクセスして

しばらく停止していましたホームページを、最近更新し始めました。特に、山之内調査役の継続的で多数箇所の水質検査は、データとともに、地図、写真付きで、見応えのあるものになっています。今日では、町外での調査活動に、ねぎらいやお礼の言葉があるそうです。宣伝もね。



「エコサイクルセンター」を 見学して 土居通秀

県内で発生した産業廃棄物は県内で処理することを基本理念として建設されたこの施設は、三坂と同じ仁淀川水系に位置し、計画から完成するまでの間に村を二分するほどの激しい議論の末に18年の歳月をかけて平成23年に完成したものである。それだけに安全安心面に配慮されたすばらしい施設であることは実感できたが、適正場所の評価は5段階でCと見る向きもある。蛇紋岩という風化しやすく地滑りしやすい急傾斜地の高台であることが低い評価につながったのだろう。

ベントナイト混合土・遮水シート・不織布・保護土を使った遮水工であるが、シートの耐用年数は15年、紫外線で早まる劣化、屋根付きのクロードシステムゆえ漏水は防げるか。

処分場の深さが10メートル以内、浅いことは遮水工が完璧にでき、掘り返しての修繕も容易。6カ所のモニタリングシステムが完備、毎日監視、年度末に住民へ公表している。

中央構造線近くであり、亀裂破砕があり、漏水が心配される三坂、縦の遮水工60メートルの三坂、百万立方メートルという容積の三坂、レッグや豊島の二の舞になるのは明白であると感じた。